平成２０年度　国語部　研究部研究活動のまとめ

南丹・船井小学校教育研究会

研究テーマ》

国語力を培う指導力の在り方

～確かに読み取る力と豊かに表現する力の育成をめざして～

【重点課題】

☆言葉の働きに着目した指導の充実
☆指導内容に応じた効果的な指導法
☆他教科等の言語活動の充実を図るための中核となる国語科の指導

第一回	時	平成２０年６月４日　　１３：４０～１６：３０
	場	京丹波町立三ノ宮小学校
	研究の概要	１）公開授業 学年：第１学年 単元・教材名　「はなのみち」 ２）事後研究会 ３）実践交流会 ○各校の特色ある取組について
第二回	時	平成２０年７月２３日　　１３：３０～１６：３０
	場	南丹市立園部第二小学校
	研究の概要	理論研修 実践発表 「子どもとともにつくる授業～説明的な文章を中心にして～」 発表者：南丹市立平屋小学校 出前講座 「国語科の授業改善に向けて」 講師：京都府総合教育センター研究主事兼指導主事
第三回		平成２０年７月２３日　　１３：３０～１６：３０
		京丹波町立丹波ひかり小学校
	研究の概要	（１）公開授業 学年：第６学年 単元・教材名　筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう 「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」 「インターネットと学習」 ２）事後研究会 ３）実践交流会 ○各校の特色ある取組の成果、児童の実態に即した効果的な指導法、日々の指導の悩み等について

本年度の研究で明らかになった内容	１）成果 ◎２回の公開授業、授業研究会と実践発表、総合教育センターの出前講座を通じ、以下のことを全体で学ぶことができた。 ＊１年生が初めて出会う文学的な文章をどのように読ませていくか、について ・教師が叙述に即した読みを進めることにより、子ども達が季節の変化を表す言葉に気付いたり、前ページとの違いに気付いて発表したりする。そのことが、国語を楽しむ第一歩である。 ・読み取ること（読み取ったこと）を確かめる動作化（根拠のある動作化）が、低学年では効果的である。 ・言葉に着目させるための板書の工夫や児童の意見を絡み合わせるためのコーディネーター役としての教師の働きが重要である。 ＊子どもが意欲的に学習に取り組む授業について ・児童が文章を正確に豊かに読み、感動し、生き生きと活躍する授業を目指すために、教師が教材と十分に向き合うことから始まる。 ＊国語科の授業改善に向けて ・「身に付けさせたい力を明確にした指導」をするために、教師がこれまでの授業をふり返って、思い切った授業改善をし、「読むこと」の授業で「書くこと」取り扱いを増やすことが大切である。 ＊言葉に着目した読み取りをし、自分の考えを自分の言葉で発言できる授業の展開について ・事実と筆者の意見を整理した板書の工夫等で、児童に共通認識させ、筆者の意見に対する自分の考えをもたせるようにする。 ◎各校の特色ある取組、言葉の働きに着目した指導の方法、当該学年で身に付けさせる力と系統的な指導の重要性など、日々の指導を通じての実践を交流ことが出来た。 ２）課題 ◎指導内容に応じた効果的な指導について ・当該学年で指導することと他学年で指導することの系統性を整理する。
来年度への研究課題	◎２２年度の府小研での実践発表に向けて ・国語部として取り組めるよう、来年度の活動計画を考える必要がある。 ◎新学習指導要領における指導の在り方について ・教材をどう扱うか、教材を通して何を身に付けさせるか、指導内容を明確にし授業研究を目指す必要性がある。
その他の研究活動	Ｈ２０．５．１９　各支部研究部長合同会議 Ｈ２０．６．２３　国語部支部長会議 Ｈ２０．８．２６　国語部支部長会議　　専門研究員実践報告